



第1回

地域景観拠点

地域景観拠点制度とは

景観まちづくりに生かすため、地域の人々に親しまれ、まちづくりの拠点となる重要な景観資源を登録し、保全活用していこうとする制度です。

人にはそれぞれ、忘れられない場所や印象に残る風景があるものです。

目を閉じると、幼いころ歩いた通りや、友達と遊んだ水辺が懐かしい思い出とともに浮かんできませんか。

そこは、だれもが知っている有名な場所や風景ではないかもしれませんが、その人にとっては、かけがえのない、特別な空間といえます。

もう一度、あなたの周りに目を向けてください。何年も生き続ける木や、時を刻む川のせらぎがあります。歴史や文化を感じさせる建物

や通りがあります。

今まで当たり前のように見てきた景観に愛着と誇りを持ち、いつまでも残したいと思うことが大切です。そして、あなたの心に芽生えた潤いや安らぎを、誰かに伝えてください。

すばらしい景観を守り続けていこうという心の結びつきは、ひとりだけの特別な場所をみんなのふるさとへと変えるのです。

都市づくり課 ☎(82)9643

水無川景観軸【水】

多くの市民から親しまれ、憩いの場となる水無川は、水と緑に囲まれた「風の道」の重要な景観軸となっている。

水-2: ~風の道~県立秦野戸川公園「風の吊り橋」



水-1: ~風の道~水無川の顔「まほろば大橋」



水-3: ~風の道~水無川の「シダレザクラ」



水-5: 歴史・文化の継承「桜土手古墳公園」



水-4: ~風の道~水無川の「散策路」と「花壇」



本町地区景観ゾーン【本】

歴史ある屋敷や文化施設も残り、今後も「歴史的文化的地区」として保全活用が求められる。

本-1: 大用寺の「鐘楼門」と「サルスベリ」



本-2: ~水のはだの~近代化の象徴「厩屋配水場と用水跡」

南地区景観ゾーン【南】

桜の名所や歴史ある建物が点在し、これらの調和を図りつつ、「桜の地区」への活用も考えられる。

南-1: 南小学校を見続けてきた「ソメイヨシノ」



南-2: 西大竹から堀川へ続く「桜並木」



南-3: 湧水と桜の憩いの場「今泉名水桜公園」



南-4: 今泉の農村風景の面影を残す「長屋門」



南-5: 昔の店構えを残す「今泉の相原商店」



南-6: 安らぎをもたらす「立野緑地」



南-7: 盆地の眺望点「小原の供養塔」



北地区景観ゾーン【北】

丹沢の雄大な自然環境に触れ、人々の心を育む。今後もその重要性を認識し、自然と調和したまちづくりが求められる。

北-1: 緑の青少年活動拠点「丹沢野外活動センター」



大根地区景観ゾーン【大】

歴史ある建築物と新しい建築物が融合し、景観に配慮した公共施設整備がされている。今後、さらに新旧建築物が融合したまちづくりが求められる。



大-1: 鎮守の森「東光寺薬師堂」



大-2: 潤い空間「東名ハイウェイパーク」



鶴巻地区景観ゾーン【鶴】

地域住民の景観推進活動も盛んで、その成果は市民に親しまれる観光資源の一翼を担う。今後、さらなる協働によるまちづくりが求められる。

鶴-2: 善波川「鶴巻あじさい散歩道」



鶴-1: 鶴巻のシンボルツリー「大ケヤキ」



鶴-3: 大根川「鶴巻親水遊歩道」



東地区景観ゾーン【東】

多くの歴史と自然が残り、今後、これらの財産を地域活性化の核として活用することが考えられる。

東-1: 壮大な自然景観「葛葉峡谷」



東-2: 自然が残る歴史まち「矢倉沢住遷」



東-3: 中世の歴史拠点「源実朝公御首塚」と「田原ふるさと公園」



西地区景観ゾーン【西】

昔の秦野の面影を残す遺物も多く点在し、観光資源としても活用されている。今後、これらの財産を地域活性化の核とすることが考えられる。

西-1: 渋沢曲松のシンボルツリー「国栄稲荷神社の大イチョウ」



西-2: 春を感じさせる「泉蔵寺のチューリップ」



西-3: 里山の原風景を残す「峠の雛壇畑」



西-4: 渋沢下の庭に残る「石垣通り」

上地区景観ゾーン【上】

かつての秦野を原風景として残し、懐かしさが感じられるこの景観を次の世代へ引き継ぐための保全活動が求められる。

上-1: 山並みに調和した「上小学校」

